

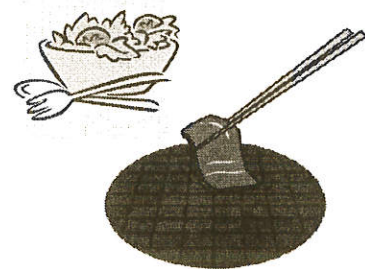
腸管出血性大腸菌感染症(0157等)にご注意を!

大腸菌は元々、人や動物の腸の中に住んでいる腸内細菌です。腸内細菌は、体にとって良い働きをするものもたくさんありますが、大腸菌には下痢などをひきおこすものもあり、中でも「ベロ毒素」という毒素を作りだし、血便等の重い症状を引き起こすことのある種類の大腸菌を「腸管出血性大腸菌」と呼びます。

例年、5～10月にかけて、腸管出血性大腸菌感染症の発生が多くなります。

●どうやって感染するの?

主な原因は、加熱不十分な食肉等やそれらから二次汚染した食品(サラダ、酢の物等)などです。また、患者の糞便で汚染されたものを触った指や物が口に入ることで感染します。



●潜伏期間は?

2～14日(多くの場合3～5日)と長く、原因が特定しにくいいため、感染が広がる危険性があります。

●どんな症状?

激しい腹痛、頻回の水様便が主な症状で、血便となることもあります。発熱は軽度で、多くは37℃台です。また、下痢などの初発症状発現の数日から2週間以内に、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの重症な合併症を発症することがあります。HUSの発症は、3歳以下の小児に多く見られます。



●予防するには?

☆食肉等の食品は十分に加熱(中心温度75℃以上で1分以上)しましょう。

☆焼肉等で生肉を扱う箸は、食べる箸と使い分けましょう。

☆調理器具、手指の洗浄・消毒をしましょう。特に生肉等を扱ったあとは十分に行いましょう。

☆患者からの二次感染に注意しましょう。(詳しくは裏面をご覧ください。)

[問い合わせ先]

各区保健福祉センター

[発行元]

大阪市保健所感染症対策課

Tel 06-6647-0656

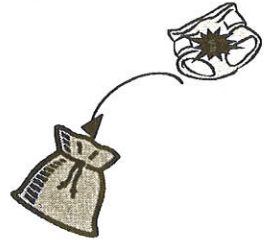
Fax 06-6647-1029

★二次感染防止のポイント★

患者さんからの二次感染を予防するために適切な対応をとしましょう。また、普段から外出後、調理前や食事前、トイレの後は十分な手洗いを心がけましょう。

おむつについて

便を処理する時は使い捨てビニール手袋を使いましょう。特に汚れたおむつの交換は、内容物が飛び散らないように注意して、速やかに閉じて便を包み込み、ビニール袋に入れましょう。複数のおむつを交換する時は、一人の処理が終わる度に必ず手袋を取替え、手を洗いましょう。



衣類などについて

患者さんの便で汚れた衣類は、便を取り除き、汚れを落としましょう。他の家族のものとは別に洗濯します。消毒が必要であれば、約500~1000ppm (5%濃度なら50~100倍) に薄めた塩素系消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム)に30分以上つけ置きします。その後、普通に洗濯します。塩素系消毒薬で色落ちする可能性もあるので、ご注意ください。あるいは、熱湯で煮沸しても十分効果があります。



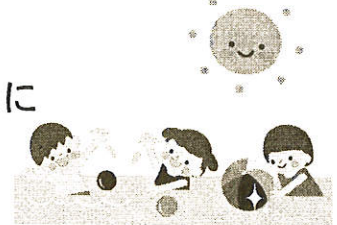
トイレなどについて

トイレの便座、便器の水洗の取っ手、水道栓、ドアノブ、手すり等は定期的に清掃し、0.1~0.2%の逆性石けん(塩化ベンザルコニウム)等で拭きます。消毒薬の散布や噴霧は適しません。



風呂やプールについて

- 入浴はまずおしりを石けんでよく洗ってから入ります。症状のある時はできればシャワーだけにし、回復後1週間は入浴順序を最後にしましょう。
- タオルや手ぬぐいは、自分専用のものを使い、他の人との共用はやめましょう。
- プールに入る前は、おしりを中心に体をよく洗います。
- ビニールプール等を利用して水遊びをする時には、こまめに水を入れ替えましょう。下痢の症状がある人は水に入らないようにしましょう。



★こちらをご覧ください★

大阪市ホームページ「腸管出血性大腸菌感染症-0157、0111、026など」

<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000005551.html>

消毒方法については同ページの「感染症予防のおはなし」もご覧ください。